２０２０年（令和２年）　９月２３日　水曜日

東奥日報　１３面　掲載

光星サヨナラ勝ち

秋季 県高校野球 第３日

山田高、2点先制も涙

佐藤が決勝打 1年コンビで雪辱

野呂は本塁打

【青森山田―八学光星】９回裏、八学光星１死二、三塁、佐藤が右前にサヨナラ打を放つ＝はるか夢

６回裏、八学光星無死、野呂が右越えにソロ本塁打を放つ

と好機を広げ、佐藤の右ヨナラ勝ちを飾り、熱戦前2点適時打で劇的なサに終止符を打った。二回の2番手洗平、3番手横山が好投。三回以降は2安打無得点に抑えた。

に2点を先制されたもの、最後に力尽きた。

青森山田は幸先良く2点を先制。主戦藤森は無失策の好守備に支えられ力投を続けたものの、

サヨナラの走者がヘッドスライディングして生還すると、八学光星ナインはベンチから飛び出し喜びを爆発させた。1年生の主軸コンビが打撃で活躍し、夏の代替大会決勝で敗れた宿敵相手に雪辱を果たした。

六回。まず反撃ムードをつくったのは、つがる市出身で勝負強さが持ち味の野呂だった。「1点でも返そう」と左打席へ。粘った末の7球目をガツンと振り抜き、右翼席に突き刺した。そして九回1死二、三塁。

逆転の絶好機で右打席に立ったのは、野呂をライバルと認める佐藤だった。緊迫した場面でも気後れせず「絶対に打つ」と自分を奮い立たせた。それまで低めの変化球に手が出てしまい3三振。だがこの打席は、追い込まれる前に初球を振り抜いた。内角低めの直球を強引に右翼手の前へと運ぶ。「詰まり気味だったが、飛んでいってくれた」と、強い気持ちで勝利をたぐり寄せた。

ハイライト

1年生のダブルヒーローに仲井監督は「粗削りだが、ポテンシャルは高い。経験を積んでいい選手になってくれれば」と期待した。

夏の代替大会決勝で青森山田相手に涙をのんだ先輩の姿を、1年生は目に焼き付けていた。それだけにこの大一番には期するものがあった。「先輩と一緒に絶対甲子園に行きたい。だからこそ優勝したい」と佐藤。大きな一勝を手にした勢いそのまま、一丸で頂点を目指す。

（渡部雅士）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです